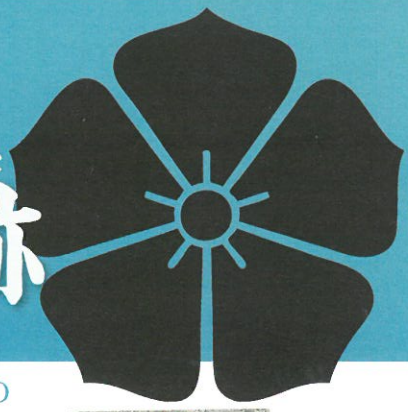


守護土岐一族の城

あけ ち なが やま じょう あと  
明智長山城跡

AKECHI NAGAYAMA JO-ATO



## 明智氏一族と長山城

現在の可児市東部、平安時代に明知荘と呼ばれた地域にかかわりを持ったのが土岐明智氏であり、後に明智光秀を生む一族です。室町幕府の奉公衆としての存在も確認でき、在京していたようです。

後々の記録では、土岐頼兼が明智氏を名乗って、康永元年(1342)に「長山城」を築き、その子孫が代々の居城にしたとあります。また、弘治2年(1556)には、明智光秀の叔父にあたる光安・光久が城主だった時、稲葉山城主斎藤義龍の攻撃を受けて落城し、この城の付近が織田信長領となった後、先祖代々の旧跡として光秀の所領となり、代官として石森九郎左衛門が置かれたと伝わっています。



## 明智長山城について

美濃の守護、土岐頼清の次男である頼兼が、康永元年(1342)頃に築城しました。

明智長山城跡主郭とされている地点は、現在配水池となっており、旧状はとどめていません。その他に、東出丸、搦手曲輪、二の曲輪、三の曲輪、西出丸、乾曲輪と伝わる場所があります。

## 城跡北麓の天龍寺

青雲山天龍寺は、曹洞宗の寺院で、寺伝によれば伝龍寺という廃寺の後に建立したと伝わっています。そこには明智一族の墓所が整備されています。

